

心を つなげる

東日本大震災関連情報

3月11日に発生した東日本大震災により、お亡くなりになられた方々に対してご冥福をお祈りしますとともに、被災されました皆様に心からお見舞い申し上げます。また、現地で災害援助活動にあらたられている皆様に深く敬意を表します。

災害時用の釜で作られたカレー

7月2日(土)、仲町小公園で行われたふれあい広場において、日本赤十字社北海道支部剣淵分区奉仕団が災害時用の炊き出し釜で作ったカレーを販売し、売上金の一部を東日本大震災の義援金にあてました。

この炊き出し釜は日本赤十字社

北海道支部から災害等の発生時に使う救護装備として平成21年9月に配置されたものです。カレーだと1回に300食作ることができます。日赤剣淵分区は義援金を1円でも多く寄付したいと、カレーに使用する材料も会員から寄付をつのりました。その結果、いも、ニンジン、玉ねぎや米が会員の善意により集まりました。

会場に集まったお客さんは趣旨に賛同し、おいしそうにカレーを食べていました。



▶300食用意されたカレー。

剣淵町で災害が起きた場合を想定した防災図上訓練が行われました

7月20日(水)、町民センターにおいて、旭川地方気象台防災業務課長及川太美夫さんを招き、平成23年度剣淵町自治会連合会の自治会役員研修会が開催されまし

た。

研修会は災害図上訓練DIG(ディグ)という手法をとり、大きな地図を参加者が囲み、剣淵町に1時間当たり50mmの大雨が2時間降る災害が発生した場合を想定し、書き込みをしながら地域の災害に対する強みや弱みを確認しました。

4班に分かれた自治会役員の方々は、まず国道や道道、避難場所に印を付け、剣淵町全体でどのような災害が発生するか地図に描き落とししました。その後、各班で発表し、ある程度剣淵町内でのどのような災害が発生するか共通認識が持てていることが分かりました。それにより、災害が発生した際の対応について町職員・農協職員や農家も共通の対応ができることがわかりました。今後は協力し合って速やかな対応をとることが望まれます。

また、研修会の中では、どれくらいの雨量で災害になるのか、避難の必要性の判断が難しいとの意見がありました。まず重要なのは旭川地方気象台で出している細かい天気予報を確認することです。

さらに避難が必要となるような

緊急時には、町が旭川気象台に直接連絡を取り、対応策をとることができ、昨年の集中豪雨の際も、町が気象台と直接やり取りして対応しています。

今回自治会役員研修会でこのような取り組みが行われたことは、東日本大震災後、防災に対する意識が、災害なんて起こらない「だろう」から、起こる「かもしれない」に変わったからだと感じます。一人ひとりが、防災意識を持って生活することが災害での行動や被害を少なくすることが出来る防災対策の第一歩だと思います。



▲講師の旭川地方気象台防災業務課長 及川太美夫

▼剣淵町の地図を使い、町内で発生すると考えられる災害の場所を掘り起こし、印を付けています。



ボランティア震災支援

劍淵町西町にお住まいの関彰彦さん（58）が、4月18日（月）～5月20日（金）までの期間、岩手県石巻市を中心にボランティアで震災支援を行ってきました。



▲西町にお住まいの関彰彦さん

私が今回ボランティアに行くきっかけとなったのは、インターネットで「冷凍工場が破壊され、冷凍食品が個人宅の軒下や道路に散乱し、それが融けて腐ってきている」状態を知ったためです。

魚介類の死がいなどの有機物は泥をかき出した後も残るため石灰や消毒液を使った消毒が必要です。避難所や学校での感染症の発生やまん延を防ぐためにも、迅速な消毒作業が必要だと感じ、NPO法人のボランティア団体に応募し、現地での活動に備え消毒液の原液1.2t分を自主的に購入し、エンジン付きの散布機や携帯用の散布機と合わせて被災地に持ち込みました。

消毒作業は石巻市を中心に、大通り約25kmの下水道に3日かけて消毒液を散布したり、保育園の遊び場や教室、依頼のあった個人宅について行いました。

家の中の消毒は床下や畳をはがし、その場所が湿っている状態で行います。しかし、石灰で床板が傷むので依頼主に確認しながら、石灰を使用しない場合は、縁の下に潜って消毒しました。

消毒作業以外で印象的だったのは、ボランティア団体に依頼があり、自宅や家の前の道路のごみの片付けをした家の方から、再度同じ依頼が来たことです。

話を聞いてみると、「夜中、誰かがごみを置きに来たと思う」と話され、正直残念な気持ちになりました。しかし、現実に被災者がごみをごみ捨て場まで運ぶ移動手段はなく、畳などは水を吸った後カビが生え衛生状態もよくありません。そのため、個人で処理しきれないごみを私が参加したボランティア団体に一気に捨てることにしました。ボランティア参加者が多く集まる5月1日～7日のゴールデンウィークに実施し、延べ33人で石巻市渡波地区や北上町

を中心に、廃棄物959t、畳1,950枚を集め、捨てました。



▲個人から依頼があっても、ボランティアの協力もあってもボランティアの協力もあっても、被災者に協力をお願いします。

ボランティアを通じて感じたことは、被災者の中には前に進むと頑張る人と、前を向くのも難しい人がいることです。

ある避難所にいた男性が昼間の幽霊のようだったので声をかけると、「家も妻も船も漁協もなく残り、残ったのは借金ばかりと言う人はざらにいるよ、自分は家だけだったからまだ良い」と言われ、身の詰る思いをしたことや、ボランティアは無償でする何でも頼めると誤解している方も多く、ボランティアについてもっと知る努力をしてほしいと感じました。

劍淵は大きな地震もない、いい田舎です。だからか、今回の大震災をどこか人ごとのように感じることもあるのではないのでしょうか。ぜひボランティアに参加して、被災地を間近に感じてほしいです。

義援金を受け付けています

劍淵町では3月14日から9月30日までの間、義援金の受付を行っております。皆様からたくさん義援金が寄せられております。心から感謝申し上げます。

▼日本赤十字社北海道支部

劍淵町役場住民課（日赤劍淵分區）へ直接、義援金をお持ちください。受領書を発行いたします。免税領収書が必要な場合は、窓口で申し出いただくと、後日、日本赤十字社から発行されます。

▼北海道共同募金会

劍淵町社会福祉協議会（共同募金会）へ直接、義援金をお持ちください。受領書を発行いたします。

劍淵町で受付した義援金額

- 日本赤十字社北海道支部（住民課）
2,765,563円（8月20日現在）
- 北海道共同募金会（社会福祉協議会）
1,789,629円（8月20日現在）

義援金受付期間
平成23年9月30日まで